

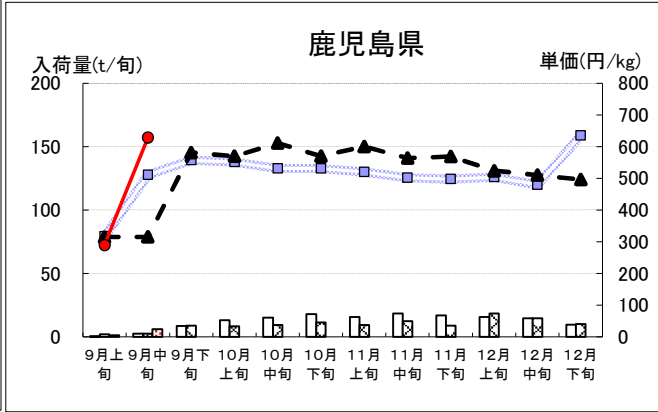
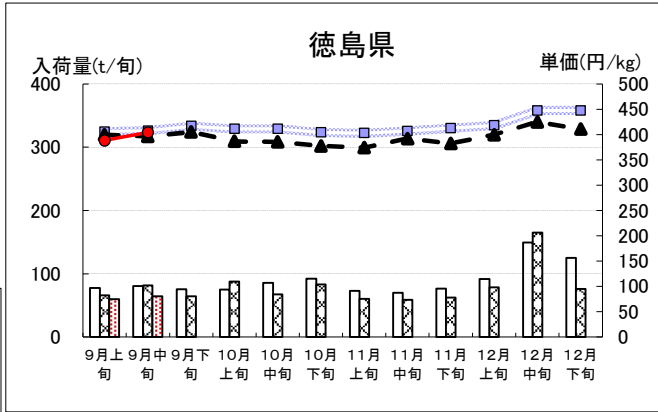
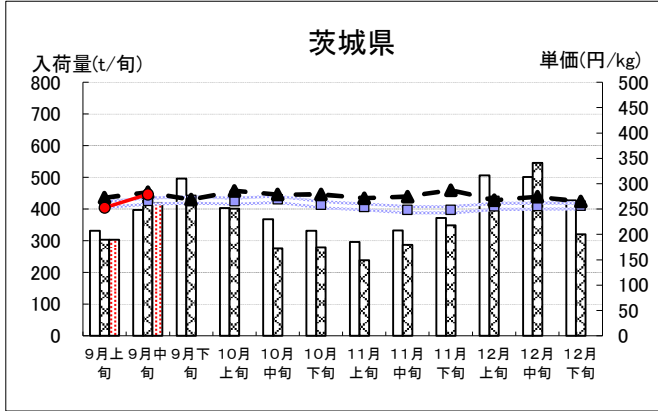
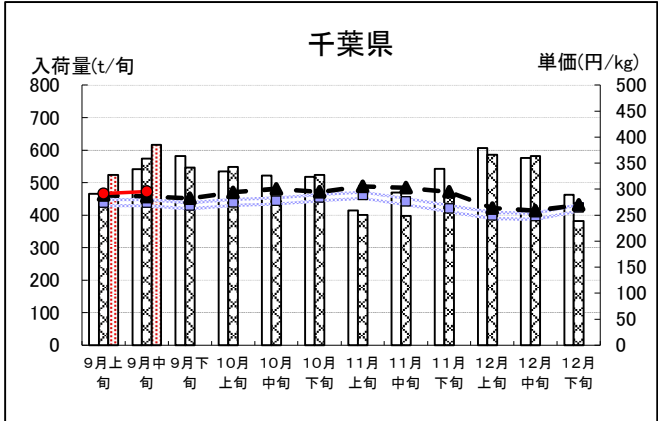
3 今月の青果物

かんしょ

主要産地のかんしょの入荷量(東京都中央卸売市場)

産地	2025年度10月入荷量	2025年度10月シェア率
千葉県	1,514 t	54.4 %
茨城県	956 t	34.3 %
徳島県	237 t	8.5 %
鹿児島県	29 t	1.0 %

10月入荷予測	2,750t(前年比98.8%、平年比90.9%)		
10月価格予測	300円(前年比99.2%、平年比103.4%)		
10月市況予測	(上旬) 強保合 ↗	(中旬) 強保合 ↗	(下旬) 保合 ⇒



今後の競合産地の動向は？

かんしょ（さつまいも）は、青果用、干し芋等加工食品用、アルコール用、でん粉原料用とさまざまな用途がありますが、市場に入荷するものは主に青果用です。

青果用かんしょは、近年の焼き芋ブームの影響により、甘味が強く、食感が滑らか〜粘質系の品種が主流となっています。暑さが落ち着き秋らしくなる9月下旬から需要が高まり、秋冬期を中心に入荷量が増加します。毎年10月13日は「さつまいもの日」となっており、特に今年は、その直前が3連休となっているため、多くの量販店でさつまいもの特売が行われることが見込まれます。

例年、千葉県及び茨城県の関東産が都中央卸売市場の入荷量の約9割を占めますが、今年は長雨や日照不足の影響を受け、ほ場に入れる日が少なく、肥大もやや小ぶり傾向につき9月の市場入荷量は夏期の高湿乾燥により少なかった前年並で推移しました。

長雨の影響は内部の品質にも及び、冠水被害等にあったほ場で収穫したものは外観では健全に見えても、貯蔵性の低下や加熱後の腐敗臭・変色等が発生するおそれがあります。それらが出荷物に混入しないよう、県内産地では収穫後にサンプルを蒸かして異常がないか確認するなど、消費者が安心して手に取れるよう指導がなされています。

